

グラフで見る関西経済(2022年6月)

2022年6月28日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断 ~持ち直しの動きがみられる

【今月のポイント】

- 関西経済は生産、輸出が足下で上向きとなり、全体として持ち直しの動きがみられる。
- 生産(4月)は2カ月ぶりに増加。電子部品デバイス、電気機械、汎用・生産用・業務用機械など関西の主力業種で増加した。
- 実質輸出(5月)は半導体製造装置などが増加し、トータルで3カ月ぶりに増加。水準も高め。
- 雇用は、就業者数が増加。
- 住宅着工は、3月、4月が高めの水準となった。

項目	現状
景気全般	持ち直しの動きがみられる(↑)
生産	持ち直しの動きがみられる(↑)
輸出	持ち直しの動きがみられる(↑)
設備投資	持ち直しの動きがみられる
雇用	持ち直しの動きがみられる(↑)
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	持ち直しの動きがみられる(↑)
公共投資	増加している

注: ()内は前月からの変化の方向

景気全般は、「持ち直しの動きが一服」から上方修正(↑)

生産は、「持ち直しの動きが一服」から上方修正(↑)

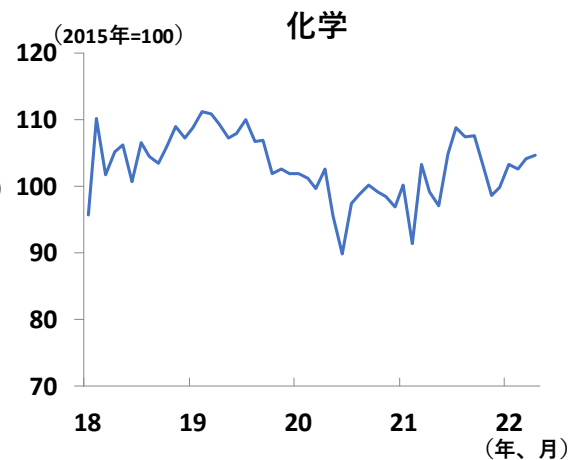
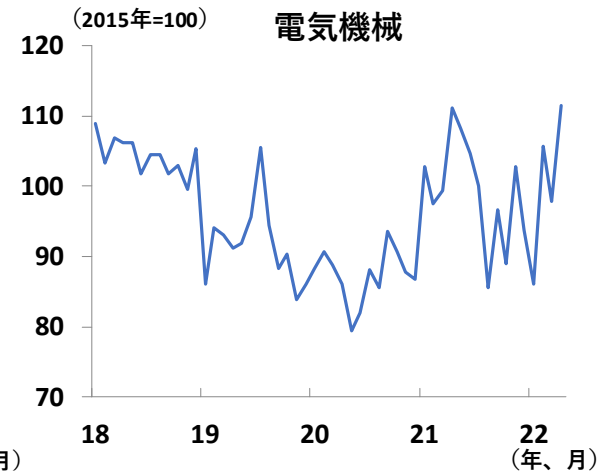
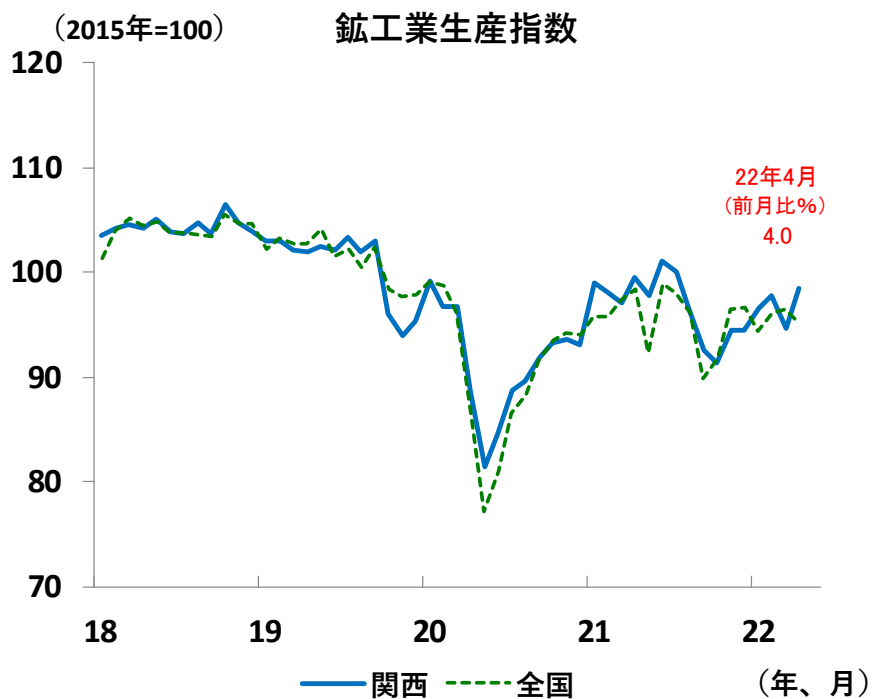
輸出は、「持ち直しの動きが一服」から上方修正(↑)

雇用は、「弱い動きがみられる」から上方修正(↑)

住宅投資は、「弱含んでいる」から上方修正(↑)

生産

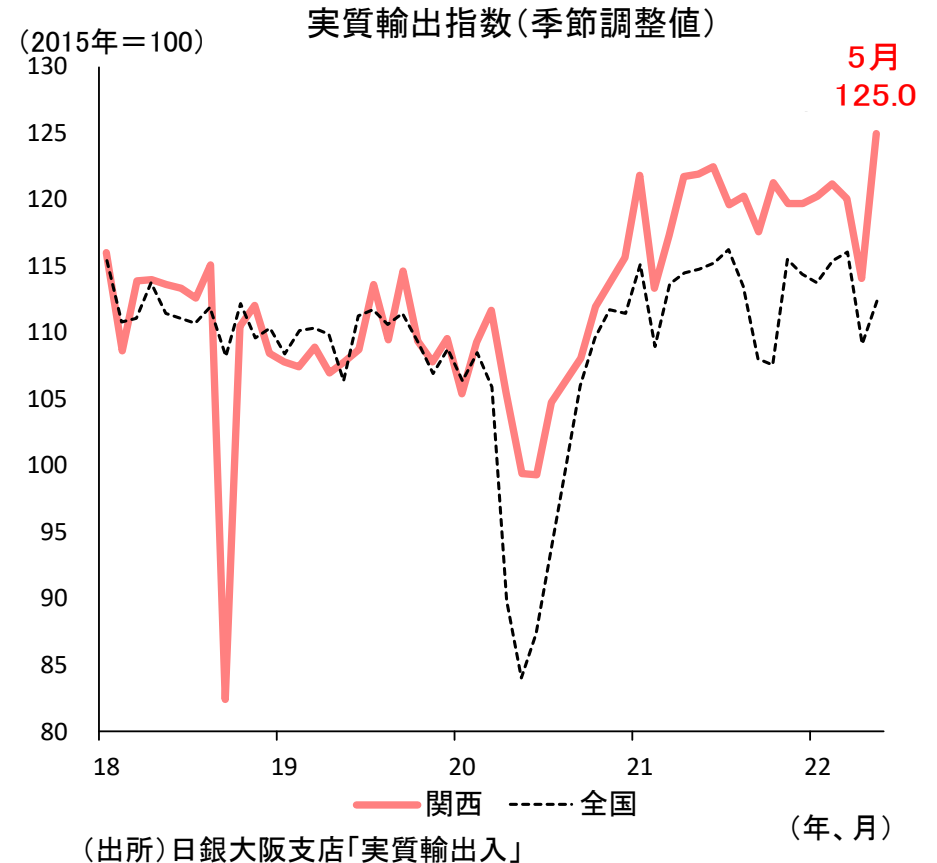
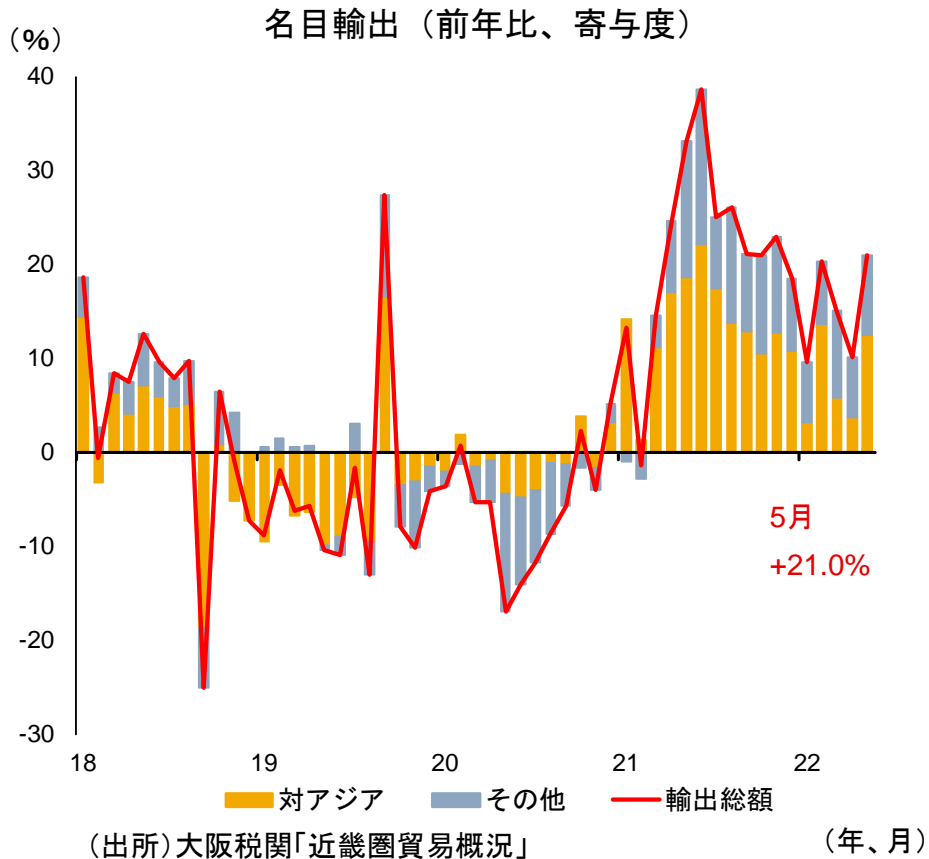
4月の鉱工業生産(関西)は前月比+4.0%と2カ月ぶりに増加。電子部品デバイス、電気機械、汎用・生産用・業務用機械、化学など主要業種が増加した。



(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」

輸出

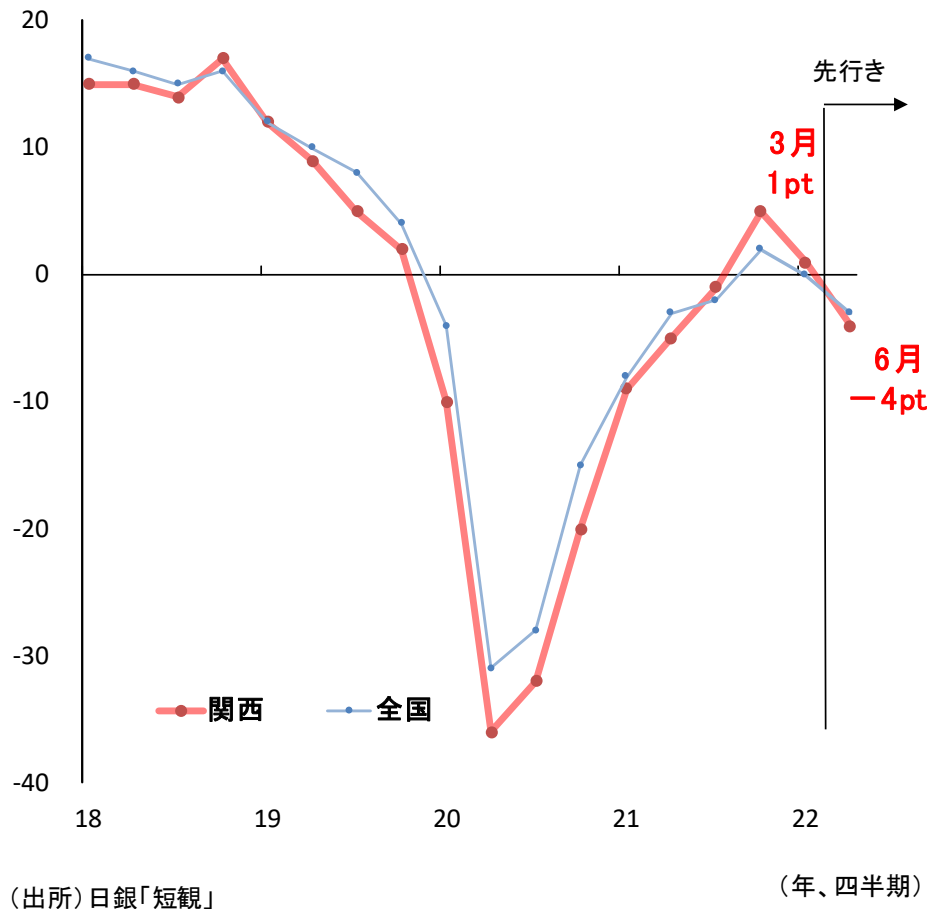
5月の名目輸出額は、円安、単価上昇の影響もあって前年比+21.0%と15ヵ月連続で増加。地域別では、アジア、米国、EU、その他のいずれも増加した。品目別では、鉱物性燃料、半導体等製造装置などが増加した。5月の実質輸出(季節調整値)は前月比+9.6%と増加し、水準も高めのものとなった。



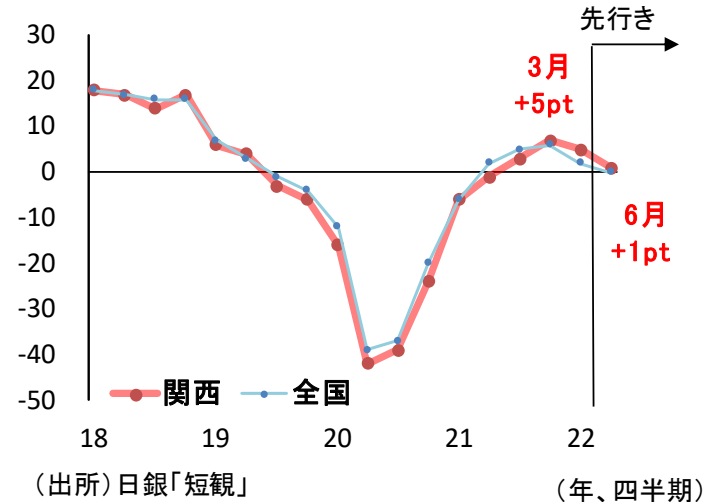
企業景況感(日銀短観) ※以下は4/1公表の3月調査。6月調査は7/1公表予定

日銀短観3月調査の業況判断DIは、全産業で+1ptと12月調査から悪化。製造業は+5pt、非製造業は-3ptといずれも悪化した(宿泊・飲食サービスが一段と悪化)。先行き(6月)については、全産業、製造業、非製造業いずれも悪化が見込まれている。

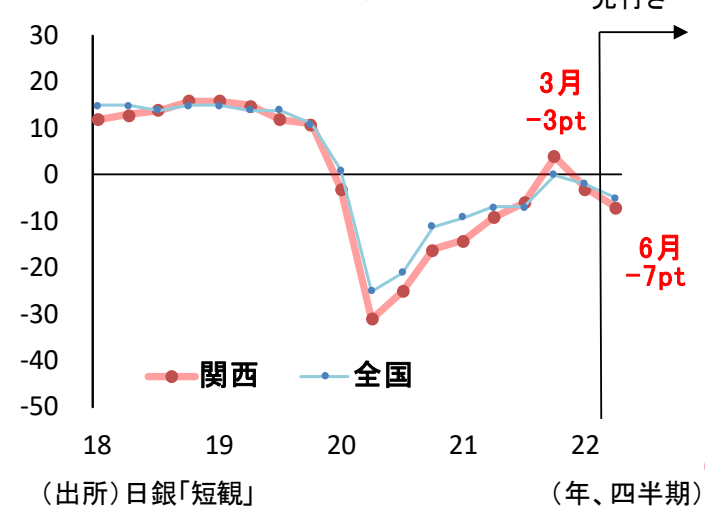
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



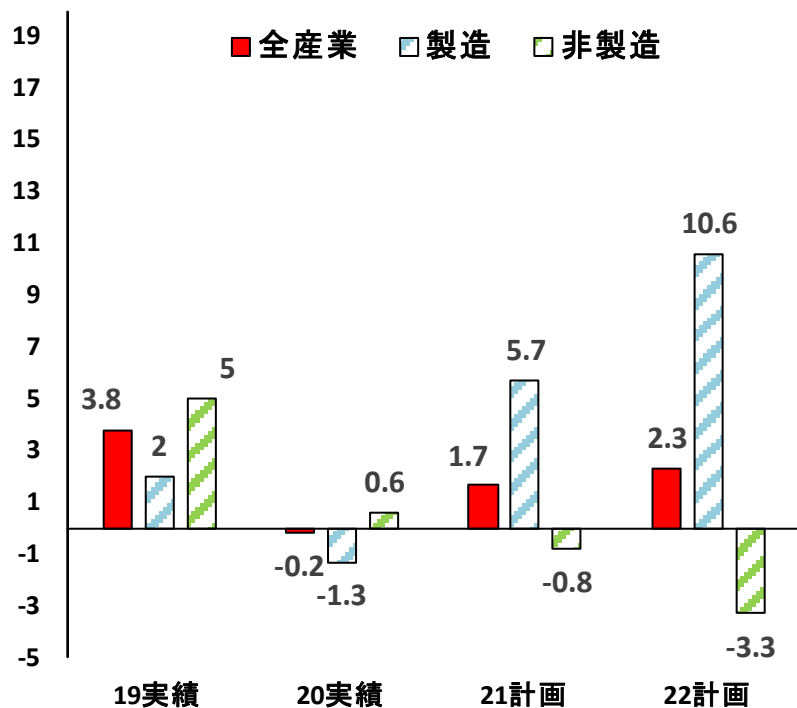
同 非製造業



設備投資※以下は4/1公表の3月調査。6月調査は7/1公表予定

日銀短観3月調査によると、21年度の設備投資(計画)は前年比+1.7%と増加が見込まれている。12月調査時と比べて、製造業、非製造業、全産業いずれも下方修正となった。22年度計画では、非製造が減少となるが、製造業(はん用・生産用・業務用機械など)が増加し、全体では増加が見込まれている。

(前年比、%) 設備投資実績・計画



(出所)日銀大阪支店「短観」

(注)設備投資は、含む土地投資額

(年度)

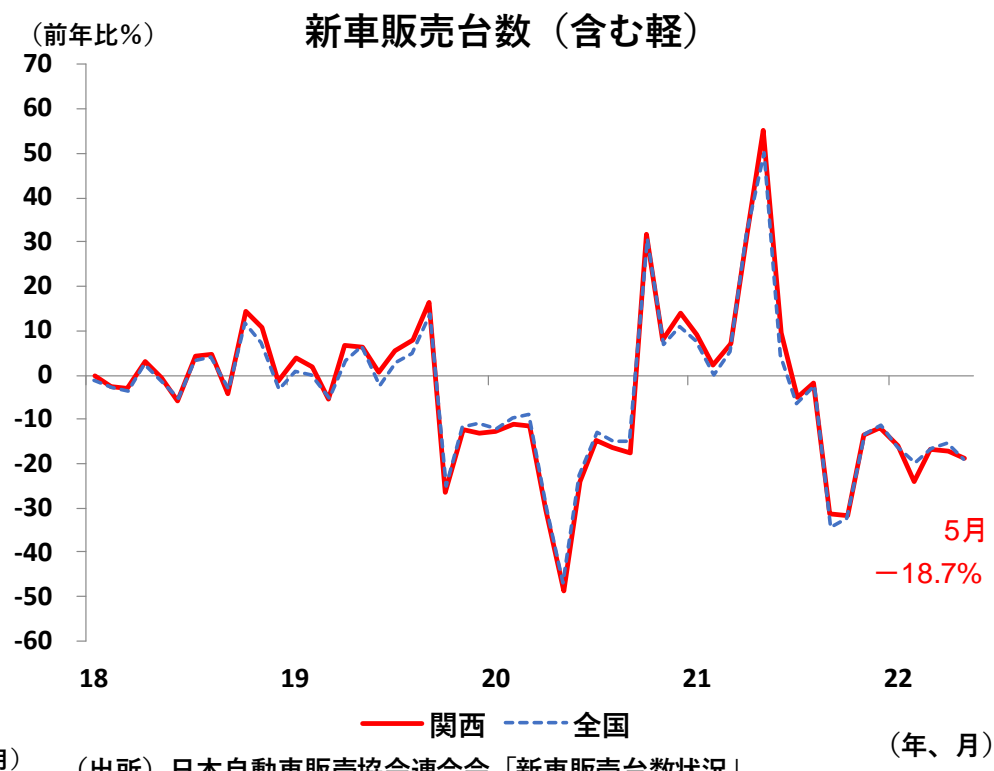
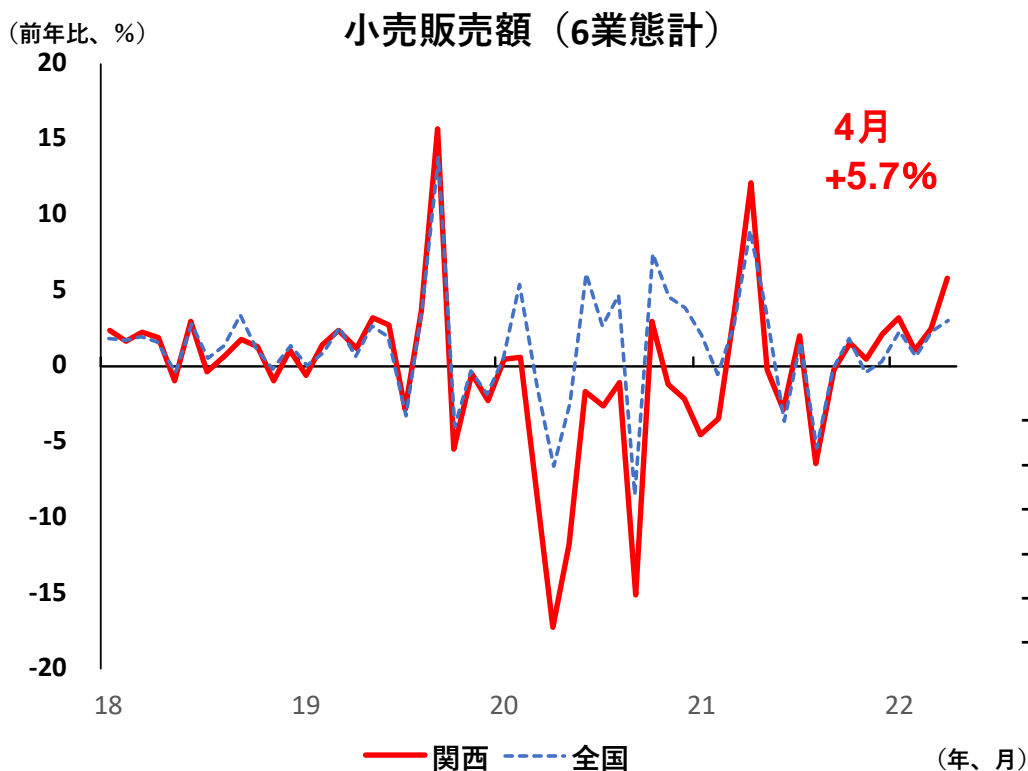
設備投資額(前年比%)

	20年度 実績	21年度計画		22年度 計画
		今回調査 (前回調査との差異)	前回調査	
全産業	-0.2	1.7 (-7.5)	9.2	2.3
製造業	-1.3	5.7 (-5.6)	11.3	10.6
非製造業	0.6	-0.8 (-8.7)	7.9	-3.3

個人消費(小売売上、自動車販売)

4月の小売販売額は前年比+5.7%と7カ月連続で増加した。もっとも、コロナ前の2019年比では、インバウンドが戻らない中、-2.0%と減少している。先行きは、人流の戻りがプラス材料となる一方、物価上昇による消費抑制が懸念材料に。

5月の新車販売は、半導体など部品供給不足による生産調整の影響により、前年比-18.7%と11カ月連続の減少となった。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

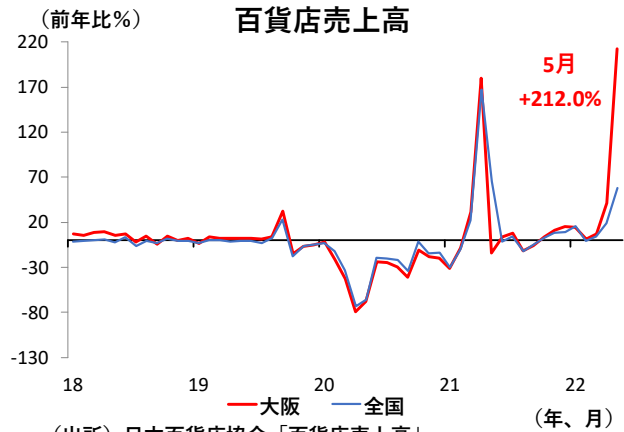
(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

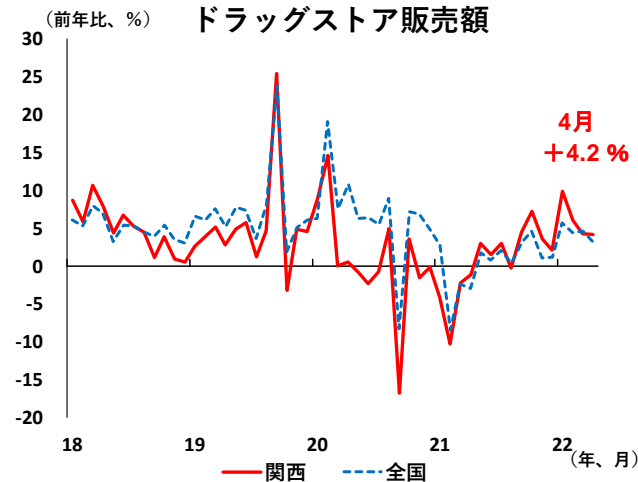
個人消費(業態別)

5月の百貨店売上(大阪)は前年比+212.0%と大幅に増加した。前年の緊急事態宣言下での休業の反動で高い伸びとなったが、コロナ前の同月(2019年4月)では-13.8%と低水準。京阪神百貨店免税売上は、訪日外客の入国制限が続く中、低水準で推移している。

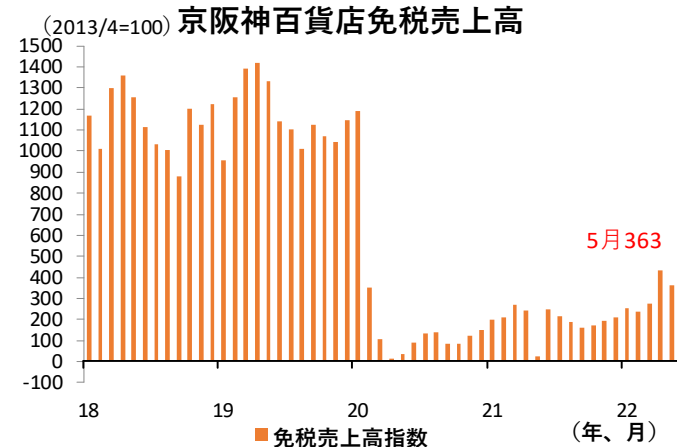


(出所) 日本百貨店協会「百貨店売上高」

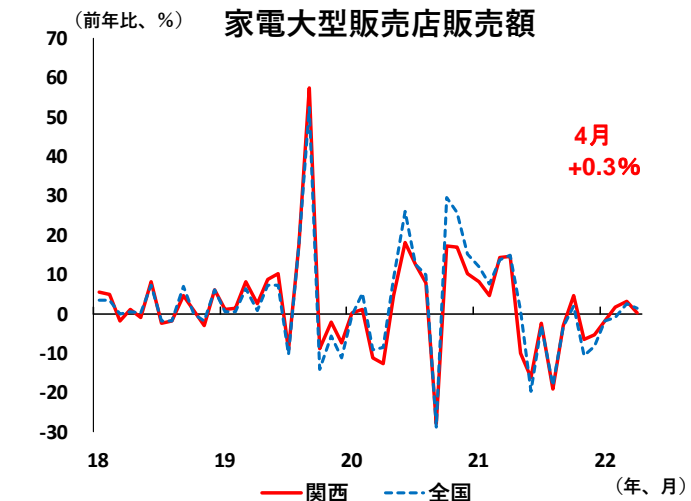
(注) 店舗調整後前年比



(出所) 経済産業省「商業動態統計」



(出所) 日銀大阪支店「百貨店免税売上(関西)」



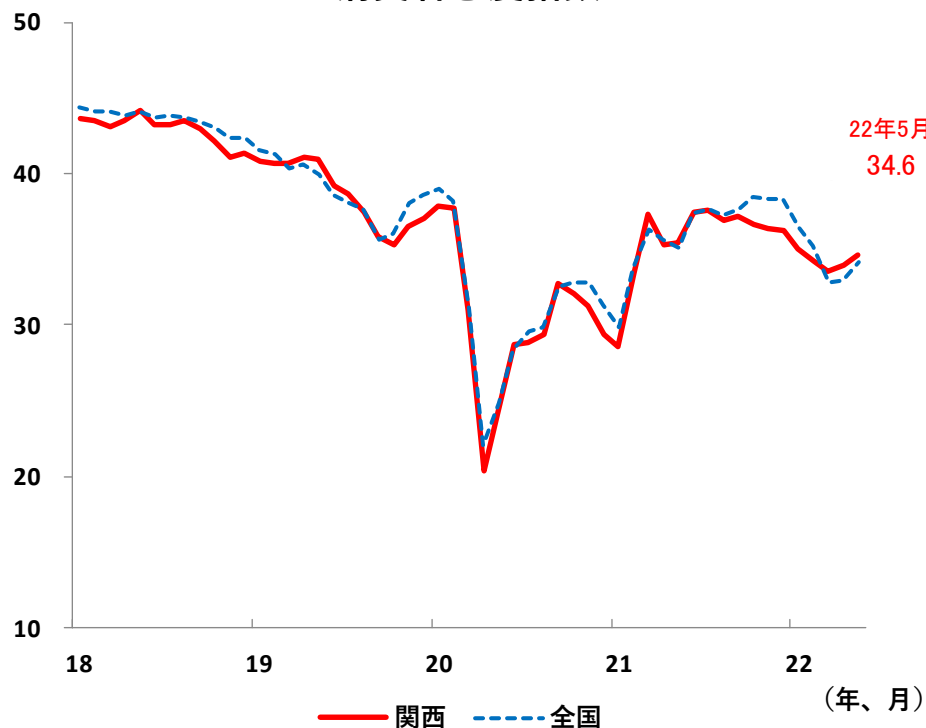
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

マインド・景況感

5月の消費者態度指数(季節調整値)は34.6と2ヵ月連続で上昇した。

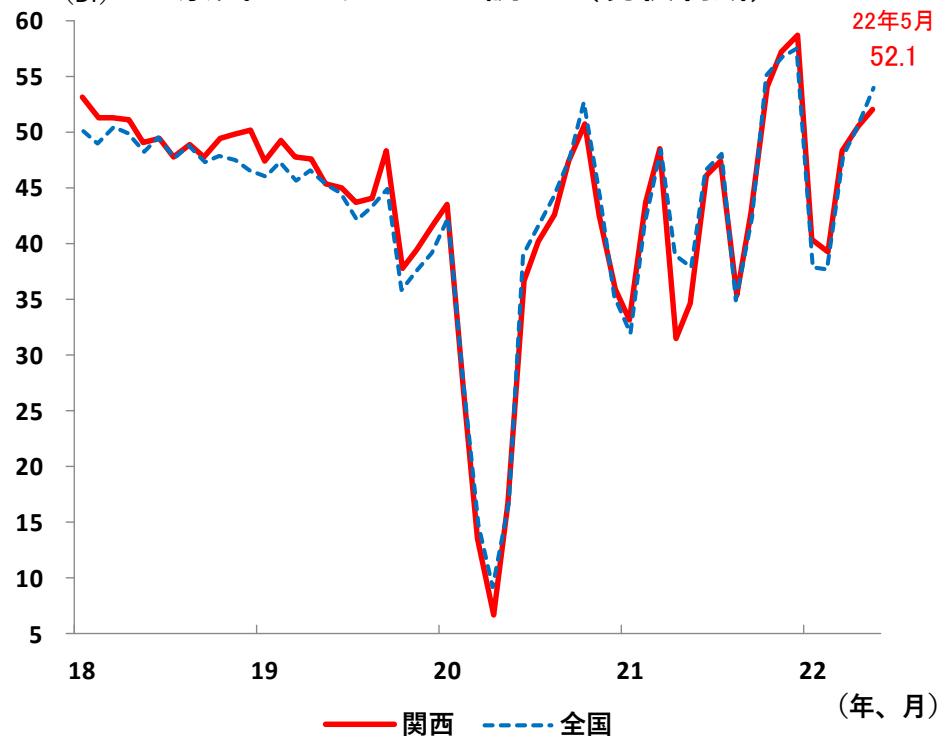
5月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、GWの人流の戻りも影響し、前月差+1.5ポイントの52.1と2ヵ月連続で上昇し、中立を示す50を2ヶ月連続で上回った。

消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

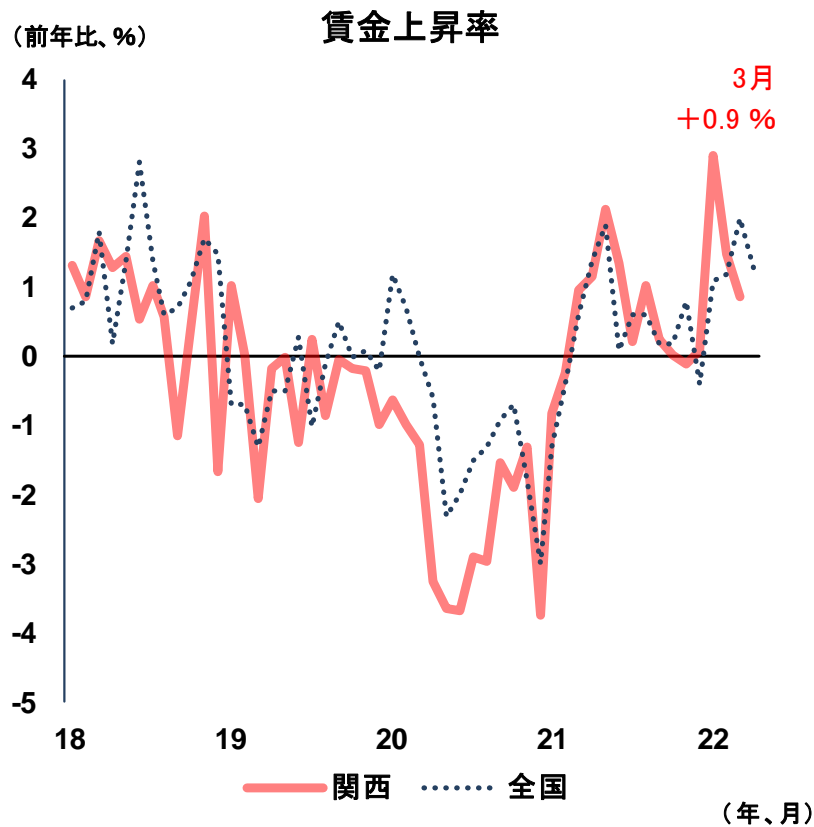
景気ウォッチャー調査 (現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

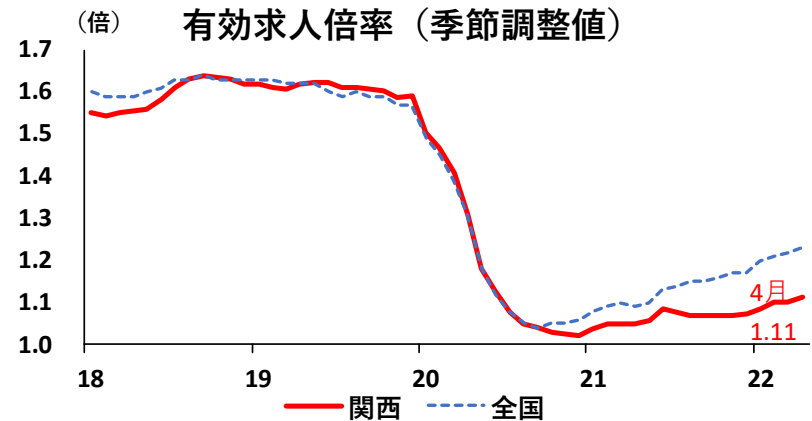
賃金・雇用

3月の名目賃金指数は前年比+0.9%と4カ月連続で増加。コロナ前の2019年比でも+0.6%と増加した。4月の有効求人倍率は1.11倍と前月とほぼ同水準。全国に比べ求職者数増加の度合いが高く、求人倍率は低めで推移している。22年1-3月期の失業率は2.9%と前期と同水準、就業者数は増加した。

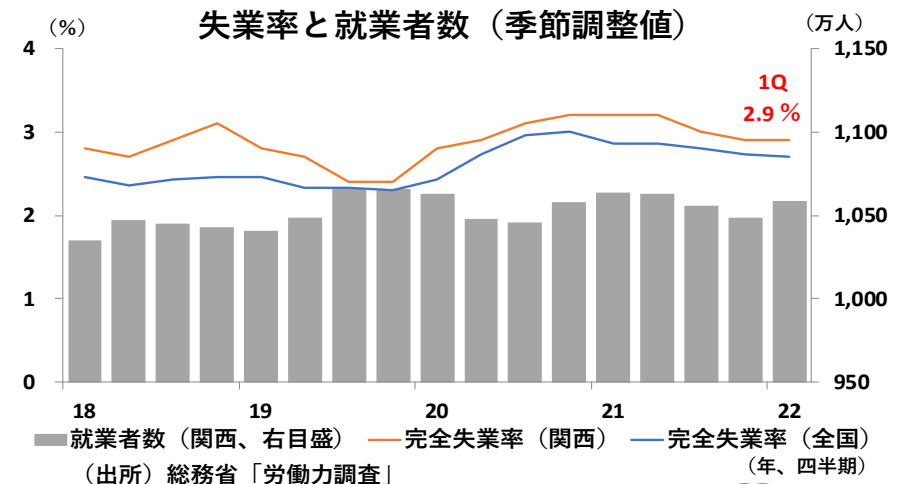


(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算

(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

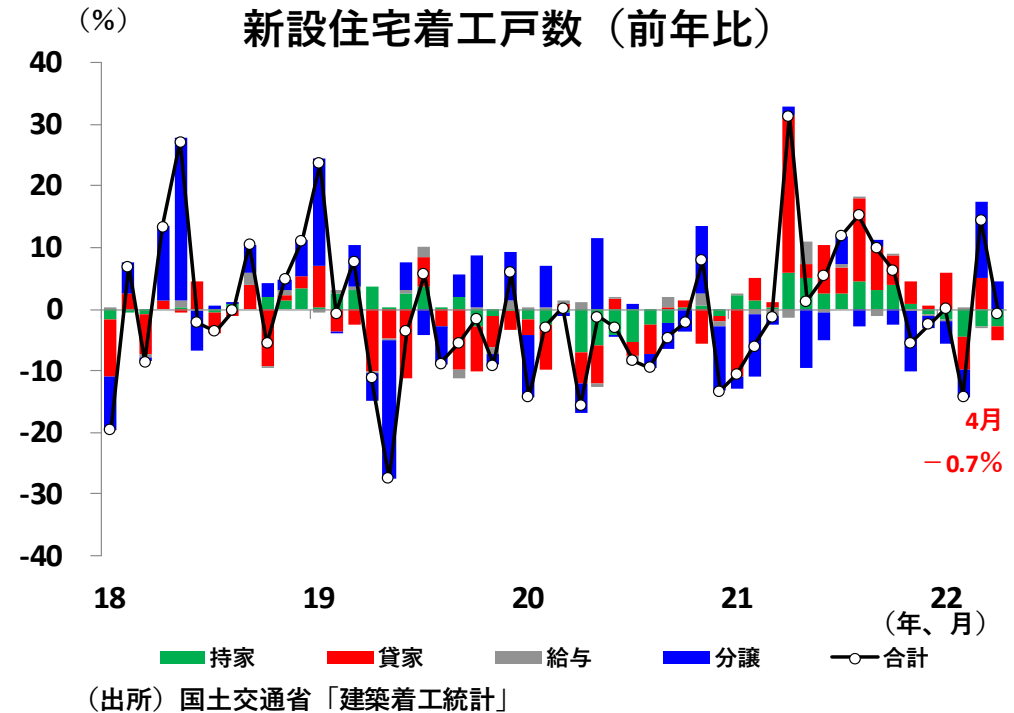
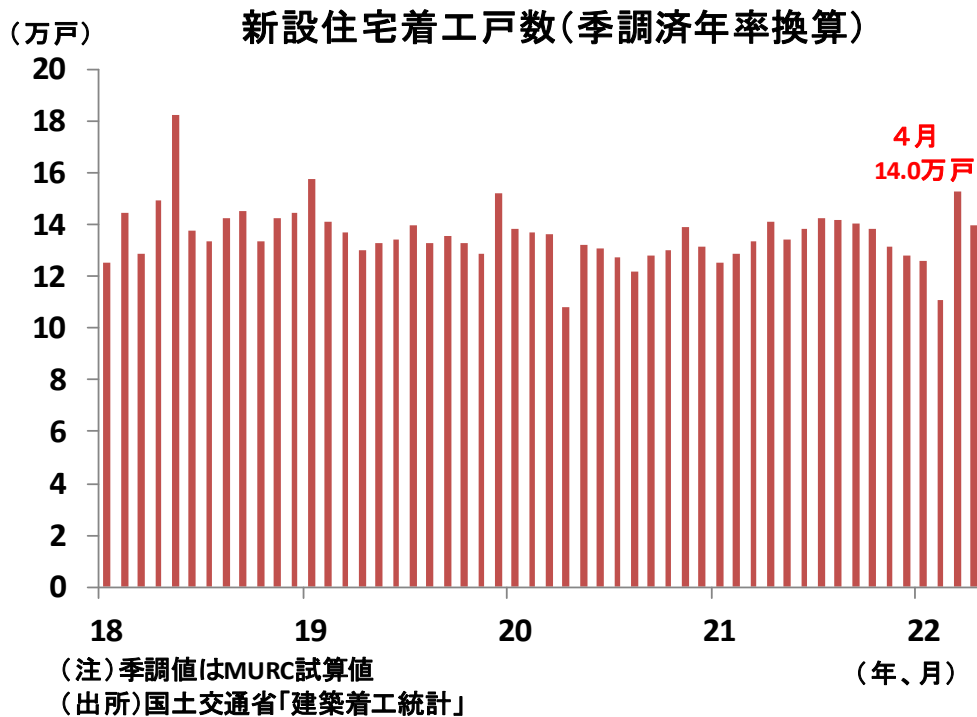


(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



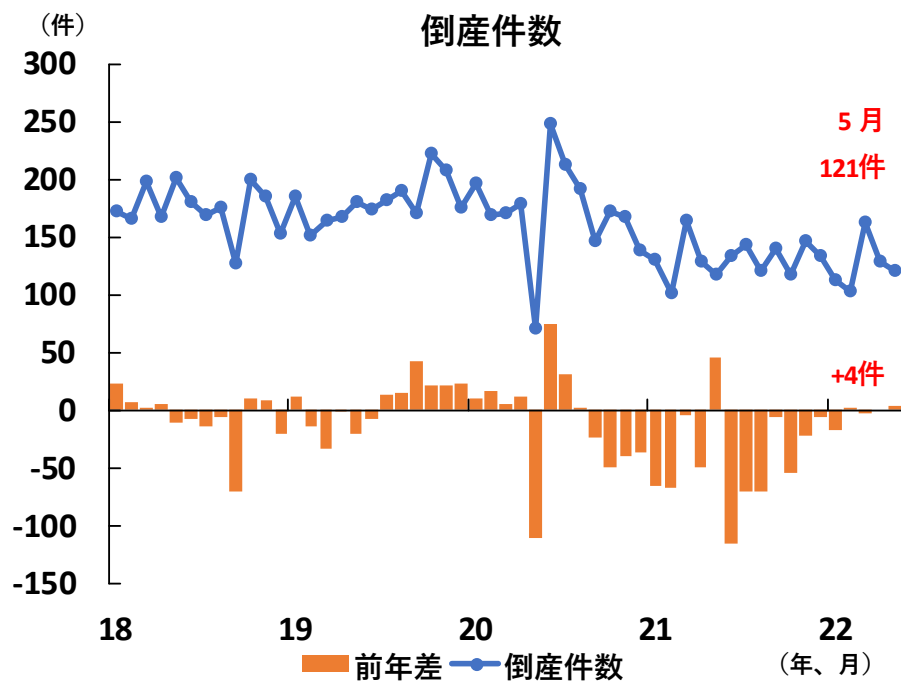
住宅投資

4月の住宅着工は季調・年率14.0万戸と前月比で減少したが、最近では高めの水準を維持している。前年比では持家、貸家が減少し-0.7%となった。



倒産

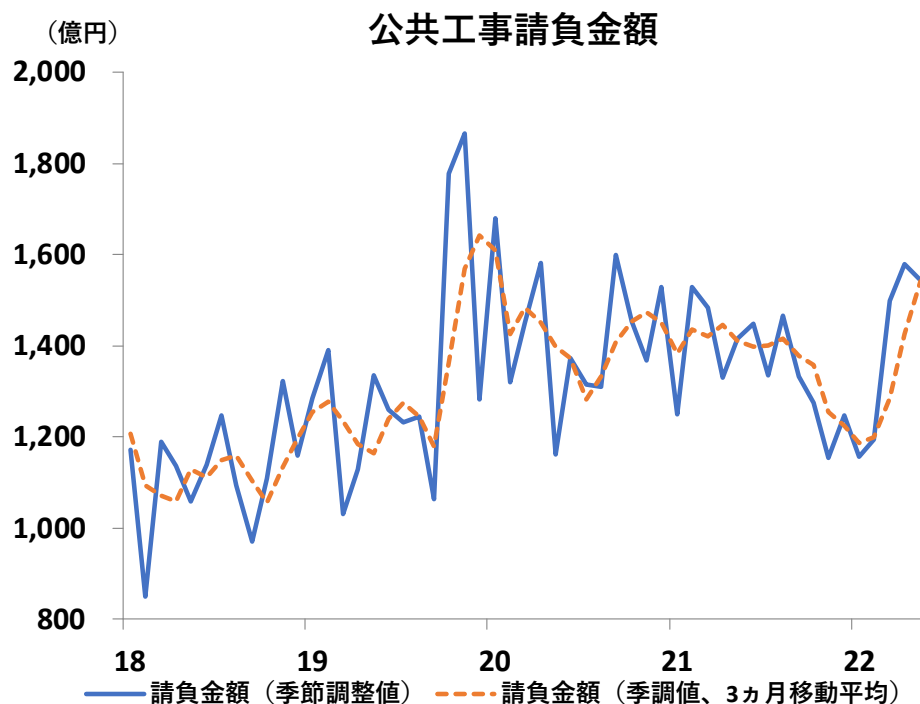
5月の倒産件数は121件と引き続き低水準で推移している。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

5月の公共工事請負金額は、前年比+8.1%と4月に引き続き増加した。均してみると横ばい圏で推移している。



(注) 季調値はMURC試算

(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください